

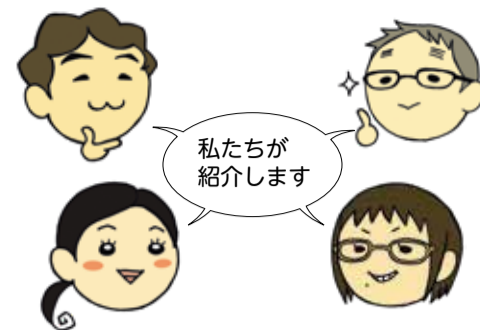
意外と知らない?!

千葉市の文化財

千葉市の文化財といえば、2017年に特別史跡に指定された加曾利貝塚が有名ですが、ほかにも国・県・市に指定・登録された100件以上もの文化財があるのをご存じでしたか。

今回は、市で公開・管理している主なものをご紹介します。

図文化財課 ☎245-5962 図245-5993



文化財アンバサダー

文化財とは

文化財は、日本の長い歴史の中で生まれ、今日まで守り伝えられてきた貴重な国民的財産です。国や地方自治体は、文化財保護法や条例に基づいて、重要なものを指定・登録し、文化財の保存を図っています。

文化財には、建造物、古文書、工芸品などの有形文化財や、作品を生み出す技術などの無形文化財といった種類があります。

市内にあるそのほかの文化財など詳しくは、[千葉市 文化財情報](#)



特別史跡 加曾利貝塚

旧生浜町役場庁舎 市指定有形文化財 建造物

生浜町役場庁舎は1932年(昭和7年)に建てられました。1955年(昭和30年)に生浜町が千葉市に編入された後は、生浜地区市民センターとして1991年まで使用されました。

市内では数少ない昭和初期の木造二階建洋風建築物で、建築技術や意匠には、東京などの中心都市の建物に比べて地方色が強く見られるなど、近代建築史の変遷を考える上でとても貴重です。

建物の屋根にはフランス瓦が使われ、特に玄関ポーチ上のバルコニーは明治初期から大正期に建てられた郡役所建築によく見られるもので、この建物の大きな特長になっています。



所在地 中央区浜野町1290-3
公開日 火・木・土曜日(祝日の場合はその翌日に開館)
時間 9:00~16:30
図文化財課 ☎245-5962 図245-5993

ここに注目



2階は役場の議場が当時のまま残されています。昭和時代にタイムスリップしたみたいですね♪公開日には館内を見学できて、歴史講座や昔遊びなどのイベントを楽しめますよ

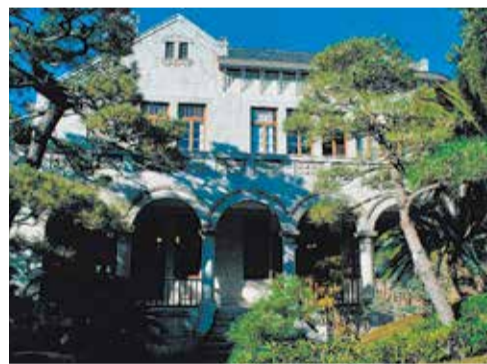


千葉市民ギャラリー・いなげ(旧神谷伝兵衛稲毛別荘) 国登録有形文化財 建造物

浅草神谷バーや電気ブランの発明で知られ、ワインづくりに生涯を捧げた神谷伝兵衛のゲストハウスとして、1918年(大正7年)に建てられました。

明治時代中期以降、稲毛には海岸線の松林を中心に別荘や別邸が立ち並びました。旧神谷伝兵衛稲毛別荘もその一つで、保養地として多くの文人墨客が訪れた稲毛の歴史を今に伝える洋風建築です。

全国的にも希少な初期のコンクリート建築で、1923年の関東大震災でも崩れずに今もその姿を残しています。



ここに注目

2月末まで耐震補強工事のため休館中です。開館後はコンサートなどのイベントも開催します♪



所在地 稲毛区稲毛1-8-35
休館日 月曜日(祝・休日の場合は翌平日)
*工事のため、2月末まで休館
時間 9:00~17:15
図文化振興課 ☎245-5262 図245-5592

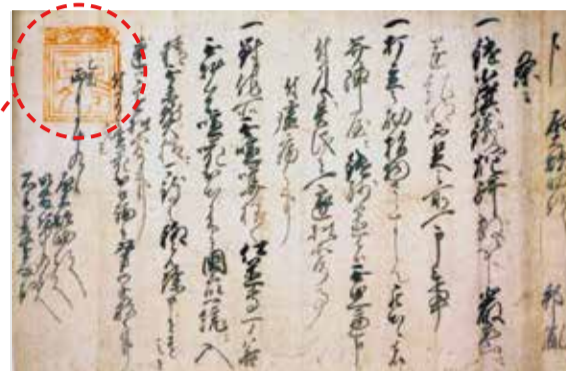


天井のブドウのレリーフ



タイルをはめ込んだ暖炉

原文書 市指定有形文化財 古文書



千葉邦胤朱印条書

邦胤が出陣にあたり、家臣たちにけんかの禁止や仮病の者の報告などを命じています



ここに注目



千葉氏の家印と思われる竜の朱印が用いられているのだ

郷土博物館で公開している文化財

千葉氏一族で、重臣だった原氏に伝わった文書です。戦国時代に千葉宗家を継いだ胤富や邦胤から原氏から家臣へ宛てた書状が中心で、当時の千葉氏や水運などの社会の状況を知ることができます。



千葉胤富判物

胤富が九十九里浜で行われていた製塩への課税について指示しています。里見方の重臣正木氏の侵攻に対し、費用を捻出するためと考えられます

古瀬戸灰釉四耳壺 市指定有形文化財 考古資料

猪鼻城跡を巡る土壘から1973年に発見された、鎌倉時代の壺です。火葬された骨が納められていたことから、蔵骨器として使用されていたと考えられます。



表面の淡い緑色は、草木の灰類などからできた灰釉といううわぐすりなのだ



ここに注目

埋蔵文化財調査センターで公開している文化財

内野第1遺跡出土 人面付土版 市指定有形文化財 考古資料

内野第1遺跡は、花見川区宇那谷町にあった旧石器時代から江戸時代にかけての遺跡です。

この資料は縄文時代晩期の「土版」という土製品です。全体の3分の1が人面で、粘土の眉、目、口の表現があります。

ここに注目

なんと!顔の両脇には耳もあるんだ



五十石遺跡出土 把手付中空円面硯附盤 1点 市指定有形文化財 考古資料

五十石遺跡は、緑区あすみが丘東2丁目にあり、2000年~2007年に発掘調査が行われ、住居の跡からこの資料が出土しました。

この資料は奈良時代のもので、本体は空洞、柄の部分には口があります。柄の穴から水を注ぎこみ、柄を上に向けて携帯していたと考えられています。



本体は空洞

柄の穴

こうした素朴なデザインのすずりは全国的にも珍しいのよ。飾らない良さを感じて欲しいな!

ここに注目



中鹿子第2遺跡出土 土偶 市指定有形文化財 考古資料

中鹿子第2遺跡は、市の東南端に位置し、緑区板倉町・小山町にまたがっています。

この土偶は、縄文時代早期の土器が集中する地点から出土したもので、状態が良好であることから、縄文時代早期前葉に作られた土偶の代表例とされています。

ここに注目

胴体の中央部がえぐれた独特の形から「パイオリン形の土偶」と呼ばれているよ



七廻塚古墳出土品 市指定有形文化財 考古資料

1958年、現在の生浜東小学校の校庭拡張工事に先立って、七廻塚古墳の発掘調査をしたところ、鉄製武器や農具、装飾模造品のほか、珍しい銅鏡などが出土しました。

この資料は、石釧と呼ばれ、古墳時代の石で作られた腕輪状の宝器です。



ここに注目

美しい幾何学模様はずっと見ていたくなるね



図埋蔵文化財調査センター ☎266-5433 図268-9004 土・日曜日、祝日休館